

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

もし病院がなかったら

八代市立第五中学校

三年 三井 翔太

母は今年の三月に入院した。知らない間にアザができたり、発熱したり、胸の痛みがあったりした。病院に行くと急性骨髄性白血病と診断された。受診したその日から入院し、抗がん剤や輸血などの治療が始まった。クリーンルームという個室での治療は「毎日、死ぬかもしれない」という気持ちでいっぱいだった。」と母は話してくれた。

今では白血病の治療方法は八〇くらいあり昔に比べると治る病気になってきたと言われる。それでも抗がん剤の費用は高く、抗がん剤を使った治療は五回もある。またお医者さんや看護師さんも常に様子を観察したり、薬を投与したりする必要がある。お風呂に入れなかった時は温かいタオルで体を拭いてもらったり、食欲が無かったときは食事のメニューを変えてもらったり、母は手厚いサポートを受けた。そのおかげで母は治療を半分終えることができた。

健康保険の制度やその制度を支える税金がなかったら、母はどうなっていただろうか。私たちが支払う医療費は税金によって支えられている。本来、白血病の治療は何百万円というお金がかかるようだ。日本には優れた健康保険と税の仕組みがあるからこそ、私たち家族は少しの負担で治療を受けることができた。

日本は外国と比べると支払う医療費がとても安いことが調べて分かった。日本では6歳から七〇歳の国民は基本的に三割程度の負担であり、治療費の七割を国が負担してくれる。病気やケガはいつ起こるか分からない。病気になると仕事をすることもできない。治療費の負担が少ないことは国民が安心安全に暮らすためにとっても大事だと思う。中には、中学生以下は治療費が無料という自治体もあり、私が住んでいる熊本県八代市も無料である。

もし、このような制度が無かったら、母は治療を続けることは難しかったと思う。また他の患者さんもケガや病気で今以上に苦しんでいたと思う。税金のことは今まで何も分からなかったし、調べようとしなかった。しかし、今では税金を納めている一人一人に感謝の気持ちでいっぱいだ。そして私が納める税金も誰かの暮らしを明るくしているのだと胸を張りこれからも暮らしていきたい。